資料編　1

用語解説

・メディア芸術（p.4）

映画、漫画、アニメーション及びコンピューターその他の電子機器等を利用した芸術。

・（財）舞台芸術財団演劇人会議（p.13）

利賀に主たる事務所を置く全国法人。地域における舞台芸術の活性化などを設立趣旨とする。理事長は演出家鈴木忠志氏。

・県公立文化施設協議会（p.20）

公立文化施設が相互の連絡、研究によって、その機能を十分に発揮し、地方文化の向上に資することを目的とする協議会。県立 6 施設を含め、県内 34 施設が加盟している。

・文化ホールネットワーク事業（p.20）

県民の芸術鑑賞機会の充実や文化ホール相互の情報交換の促進、企画運営能力の向上など文化ホールの活性化を目的に、県内の公立文化ホールが共同で公演等を実施する事業。

・利賀サマー・アーツ・プログラム（p.29）

（財）舞台芸術財団演劇人会議が利賀芸術公園で毎夏約 1 ヶ月に渡って行う企画。舞台芸術のさまざまな要素を総合的にとらえ、作品上演・演出家コンクール・演劇体験プログラム・ワークショップなどを行う。

・BeSeTo 演劇祭（p.29）

日本、中国、韓国の 3 ヶ国による国際演劇祭。“ BeSeTo ”とは、中国、韓国、日本の首都である Beijing（北京）、 Seoul（ソウル）、 Tokyo（東京）の頭文字である。

・とやま文化財百選（p.30）

地域の宝として地域住民に親しまれている数多くある文化財の中から、郷土の誇りとして後世に保存・継承すべきものを選定委員会を設置し、選定している。

「とやまの土蔵」（H16）、「とやまの獅子舞」（H17）

・バーチャルミュージアム（p.37）

デジタル画像による仮想現実の美術館

・アウトリーチ事業（p.50）

アウトリーチの本来の意味は、手を伸ばすこと。芸術文化の観点では、日頃、芸術や文化に触れる機会の少ない市民に対し、芸術団体や文化施設が働きかけを行うことをいう。

アウトリーチ事業には、文化施設等が文化施設以外の学校、公民館などで行う出前公演、体験・創作型ワークショップ、子ども、親子向け鑑賞事業などがある。

・ポータルサイト（p.51）

ユーザーがブラウザの起動時に、最初に開くサイトのこと。いろいろなニーズに対応するため、各種の情報を取り揃え、その利便性を図っている。また、ある特定の情報に関して、その情報そのものを収集、展開し、リンクへの起点となっているページ。

・フランチャイズ制（p.51）

墨田区（すみだトリフォニーホール）と新日本フィルハーモニー交響楽団、川崎市（ミューザ川崎シンフォニーホール）と東京交響楽団のように、地方公共団体とオーケストラがフランチャイズ契約を行い、オーケストラがホールを拠点として活動する一方、地域住民のため、出前コンサートや公共スペースでの演奏会を行う制度。

・企業メセナ（p.53）

メセナ（mecenat）は、芸術文化支援を意味するフランス語であり、企業メセナとは、企業による芸術文化支援である。

・舞台芸術特区 TOGA（p.57）

「演劇の利賀」として国際的に知られる利賀芸術公園一体を区域とする構造改革特別区域。劇場の芸術性をより高めるための誘導灯に係る特例の適用や国際舞台芸術人材育成事業の展開などにより、「世界演劇の拠点」づくりに取り組み、「富山から世界へ質の高い舞台芸術を発信」している。

・スズキ・メソッド（p.57）

舞台俳優の基本は呼吸と下半身の集中力を養うことから始まる。日常生活の中で退化させてしまった身体感覚を活性化することを目的とする、鈴木忠志氏によって創り出された俳優のための訓練法。世界の劇団や大学等で学ばれている。

・アートマネジメント（p.57）

芸術に関わる事業や文化施設・芸術団体の管理運営や、そのために必要な知識や技術のこと。広くは、芸術の社会展開を図ることをいう。

・日露文化フォーラム（p.58）

2001 年の鈴木忠志氏とプーチン大統領との会談が契機となり、日露文化芸術の幅広い交流を促進しようとするロシア側の呼びかけにより 2004 年 6 月に設立。日露両国の文化交流通じた相互理解を深めることを目的とする。両国の政治家や舞台関係者が委員を構成する。

・芸術監督（p.58）

運営の責任者とは別におかれる芸術上の責任者であり、文化ホールの事業を特定のコンセプトのもとで総括するなどの役割を担っている。

資料編　2

県内の文化ホール等の現状と課題

1　県立文化ホール

県内には６館の文化ホールがあり、そのうちの 5 館は、県中央部、東部、西部の中心都市に設置され、県域、広域の中核的な文化活動の拠点として位置付けられている。

（1）県民会館：昭和 39 年開館

・県の中心地に位置し 40 年以上の歴史を持つ県文化活動の中核施設で、1,217 席のホールと、美術館、ギャラリー、展示場、会議室を備えた複合施設である。

・舞台公演や美術展などを併催した総合文化フェスティバル（県民芸術文化祭・県高校文化祭など）、大会やシンポジウムなどにも利用され、日展、院展など日本を代表する美術展の巡回展が定期的に開催される。また、日常的に県の各種会議、県内美術団体の展覧会などにも利用されている。

・平成６年度に２回目の大規模改修を行っているが、中長期的視点に立って計画的に改修を行っていく必要がある。

・県の刊行物やコンサートチケットなどの販売が行われるなど、県内の催事情報の発信拠点でもあることから、情報提供機能の拡充が課題である。

・県の助成を受けて平成 17 年 10 月からスタートしたチケット販売システムの本格的な利用に向けて、県公立文化施設協議会とも連携しながら普及に取り組む必要がある。

・ホールでは全県域を対象とした舞台公演等を開催するとともに、美術館では、県内作家の回顧展や、全国美術団体の巡回展などを自主文化事業として開催しているが、ホール、美術館、展示室とも貸館による県民や興行主の利用が主体となっている。

・ホール、展示室とも、県民の利用の要望が多いため、利用しやすい運営面の努力がさらに期待されるともに、県の文化施設の情報、交流のネットワークの中心としての機能が期待されている。また、人が絶えず集まる仕掛けを工夫することによるさらなる賑わいの創出が望まれる。

（2）高岡文化ホール：昭和 61 年開館

・県西部における芸術文化振興のための拠点施設として、ホール、多目的小ホール、ギャラリー、展示場、会議室及び和室を備えた複合施設で、700 席の大ホールと 300 席の多目的小ホールは、地域の芸術文化団体の舞台発表に最適規模のホールである。

・また、大ホールの舞台は奥行き、袖ともに十分な広さがあるとともに、袖に搬入口が直結していることから、利便性が高く、他の文化ホールと比較して、客席数に対し舞台設備の水準が高く、舞踊、演劇などの舞台芸術の発表の場として評価が高い。

・築 20 年を経過し、施設の計画的な改修を行っていく必要がある。

・自主文化事業では、主に高岡市内外の企業家等有志を中心とした会員制組織である「音楽友の会」との共催による、民間主導でコンサートが実施されている。具体的には、会費と協賛金及び一般販売チケット収入を財源に、文化ホールスタッフが協力してコンサートを実施する運営形態となっている。

・地域の音楽愛好家が中心となっていることから、結果として、地元で気軽に質の高い音楽を鑑賞し、幅広い音楽愛好家層を満足させうる内容の自主企画、自主運営につながっている。

・また、その他の自主文化事業では、地元の各流派が同じ舞台に立つ能楽鑑賞大会や、郷土の音楽家を育てるズームアップコンサートなどが特筆される。

・今後とも、芸術文化に熱心で、優れた文化資源を多く有する地域の中心に位置する文化ホールとして、地域の優れた芸術文化人や愛好者との連携を図り、その協力による事業運営が期待される。

・しかし、近年、舞台芸術専門スタッフの支援に対する利用者ニーズが年々高まっているが、職員の人員不足などにより、ニーズに十分応えられない状況が出てきている。

（3）新川文化ホール：平成６年開館

・県東部地区で最大規模を誇る文化ホールとして開館してから 10 年を経過した。

・大ホールは 1,186 名の客席を有し、ホール内の残響音を任意に可変（1.3 秒～2.1 秒）できる残響可変装置を備えた県内唯一のホールである。

・音響効果の優れた大ホールでコンサートピアノ（ベーゼンドルファー）を使用したピアノ演奏の CD 録音会場として、年間 12 日間の利用がある。このホールで録音された CD は６枚が全国で発売され、この中から４枚がレコード芸術（月

刊誌）で特選となるなど録音会場として高い評価を得ている。また、県民に対しては、ホールにおいてコンサートピアノによる練習利用の貸し出しなど、広い空間ならではの感覚と感動を体験できる企画を実施している。

・小ホールは客席 297 席で、演劇など市民アマチュアレベルで使いやすい施設として評価が高い。

・展示ホールは約 1,000 ㎡の無柱のすっきりした空間で、大型の搬入エレベーターにより運搬もスムーズで、地区美術展の優秀作品を展示する「にいかわ美術展」など地域の芸術文化の向上を目指す事業を展開している。

・広い駐車スペースを有し、広域利用を前提とした施設だが、黒部、入善、上市など隣接市町にも優れた施設と特色のある活動を行う文化ホールがあるため、周辺市町からは十分活用されていると言えない。

・魚津市以外からの利用者が 14%に過ぎず、交通手段が自家用車かコミュニティバスに限られることから、催事のない日などのさらなる活用が課題である。

・広い芝生広場を有しているが、日常的に人が賑わう憩いの場とはなっていない。年に２回程度行われる野外コンサートなどのイベントでは多くの人で賑わっていることから、定期的なイベントを仕掛けるなどの工夫が必要である。

・魚津市が主体となって、旧洗足学園魚津短大校舎を、音楽、生涯学習等を中心とする練習専用施設として活用した、新川学びの森天神山交流館が開設されており、今後は、同施設との連携を図ることにより、練習と発表の一体的な活用が期待される。

・新川文化ホールでは、県民主体の文化活動が積極的に展開されており、地域で活動する団体の発表機会と交流促進の場として

ａ「かずみ野音楽祭」、「ウィンターマーチング」、「バレエパフォーマンス　イン　新川」

ｂ平成 8 年の国民文化祭開催がきっかけとなった県内外のプロやアマチュアの人形劇団等による小ホールでの「にんぎょうシアター」

ｃ地域の中学生吹奏楽のレベル向上を図る「ミラージュ・ジュニア吹奏楽クリニック」

ｄ優れた音楽空間の活用によるクラシックやポピュラーなどの音楽コンサート、演劇

ｅ地域の小中学生に日本の奥深い伝統芸能に触れる機会を提供する「伝統芸能鑑賞会」

などホールの友の会組織などの地域の要望に応じた幅広いジャンルの鑑賞事

業が開催されている。

・さらに、地域の企業によるサポート組織である、新川文化ホール振興協議会（約150社）が組織され、会費で毎月２回程度、土曜日の12時からロビーでミュージックランチコンサートを実施し、若手演奏家に発表の機会を提供している。

・平成16年度から、企業の活力と資金の提供を受ける「企業メセナ文化ホール事業」にも取り組んでいる。

・旧洗足学園魚津短期大学学長で、県芸術文化アドバイザーの中博昭氏(元N響コントラバス主席奏者)の監修のもと、ＮＨＫ交響楽団の弦楽メンバーらによる「ミラージュ・アンサンブル」が結成され、県民のリクエストに答える定期コンサート（年２回）が、新川文化ホール振興協議会との共催のもとに実施されている。

・開設以来、県、市の補助を受けた事業の展開により、ホール事業の集客状況は年々改善しているが、利用率は50%程度と低い。

・地域における県民主導の文化事業の盛り上がりが見られるなどホール開設による変化が見られるが、文化ホールの活用と地域の芸術文化団体と連携した文化活動の促進の努力がさらに期待されている。

（４）県民小劇場（オルビス）：昭和62年開館

・富山駅前の商業ビルの最上階に立地する演劇等の室内公演向きの小ホールで、通勤者や学生、高齢者の利用にも便利であり、文化を活用した賑わい創出を演出する文化施設として期待され、駅前都市再開発により設置された施設である。

・ホールは円形でフラットな床面を10分割して、舞台演出に合わせて、舞台と客席を多彩なパターンでレイアウトが可能であるなど全国的に見ても大変ユニークな施設であるとの評価を得ている。

・この施設では、舞台と客席との一体感が得られ、客席を外せば200㎡のフラットなスペースとして練習やワークショップの利用、アマチュア劇団などの創作発表の場として最適で、高校生演劇部、大学生、アマチュア演劇団体など多くの若者に利用されている。

・年間を通した会員制のプログラムにより、県民に舞台芸術の魅力、面白さを再発見させる機会を提供することを狙いとした、鑑賞とワークショップ等観客の参加も可能な事業を展開するほか、アーチストの協力による学校への出前公演などにも取り組んでいる。

・今後は、小ホールであることや、恵まれた立地などのホールの特性を活かし、

軽音楽、演劇など、少人数で楽しめるプログラム、参加型企画、地元の若者文化を育てるプログラムなどホールの利用者を増やす試みが期待される。

（5）教育文化会館：昭和 49 年開館

・教育棟、文化棟を持ち、県内文化団体や生涯学習団体が入居する施設である。客席 700 席のホールと集会室を有し、大ホールに匹敵する照明、音響などの舞台機構や所作台などを持ち、日本舞踊、青少年伝統芸能祭など、県内文化団体の発表を中心とした自主文化事業を開催している。伝統芸能をはじめ、県内文化団体の発表や教育団体、生涯学習団体の大会の会場等として多く利用されている。

・教育棟 5 階にはハイビジョンの映像施設が設置されており、映像に関する教育普及活動を行う映像センターが併設されていることから、今後とも映像祭などの自主文化事業を開催するなど、新たな映像普及拠点としても期待されている。

・また、入居している芸術文化団体等との連携による文化普及活動の振興が課題である。

（6）利賀芸術公園：平成６年開館

・演出家の鈴木忠志氏が、過疎化により廃屋となった合掌づくり家屋を磯崎新氏の設計により改装し、劇空間として生まれ変わった利賀山房を、前衛演劇の練習と発表の場として活用し、毎年、世界演劇祭「利賀フェスティバル」を開催してきたことから、演劇の利賀として世界的に有名となった。

・平成６年に県立化された公園内には、周辺の池や山、森の風景を取り込んで、磯崎氏の設計と勅使河原宏氏の作庭によるギリシャ風の野外劇場が建設されており、この野外劇場は、例年、夏の野外劇の舞台となり、国内外から多数の観客を集めている。

・また、平成６年の県立化に際しては、公園の舞台芸術による通年利用を目的として、暖房施設をもつ新利賀山房を新たに建設し、現在は（財）富山県文化振興財団による運営によって、年間を通した国内外の著名なプロ劇団や若手演劇人の公演とワークショップ等の舞台芸術のフェスティバル、県内文化団体による公演などが実施されている。

・同公園での国内の劇団による演劇公演事業の開催と、舞台芸術の普及と芸術家の連携を図るため、平成 12 年に鈴木氏が中心となり、全国法人である（財）舞台芸術財団演劇人会議が立ち上げられ、同法人とともに、国内の著名な多くの

演劇人、芸術家、劇団の出演、協力による多彩なフェスティバルが開催されてきている。

・また、鈴木氏の国際的な演劇の人的ネットワークを通して、中国、韓国、日本の著名な演出家による相互交流と演劇公演の発表を行うBeSeTo演劇祭※、日本とロシアの芸術交流の推進を目的とする日露文化フォーラム※などの国際交流事業も展開している。

・県と南砺市では、世界的に高く評価されている利賀フェスティバルや合掌づくりの民家を舞台としたユニークな演劇公演の場を、「舞台芸術特区」※として、演劇専用の劇場としての活用をさらに促進するため制度改善に取り組んでいる。

・同公園を拠点として、ロシアやアメリカをはじめ、世界的に高く評価されている鈴木氏による演劇理論であるスズキ・メソッド※をもとに、演劇教育を行う人材育成事業が展開されている。

・中学生や高校生を対象とした鑑賞教室やワークショップ、大学生を対象とした人材育成事業など、若い層への普及の取り組みが行われている。

・利賀における演劇活動の存在や優れた施設の内容については、全国的な知名度に比べ、必ずしも県民に広く知られている状況にはない。

・このことから、観劇のための県政バス等の活用や普及事業による県民への幅広い周知とともに、県内の文化施設や文化資源、観光地との連携を図ることなどにより、県外の観客の県内での回遊や、観光客への周知に努めることが課題である。

2　市町村立文化ホール等

エ　県内市町村立ホール等の現状

（1）黒部市国際文化センター（コラーレ）：平成７年開館

県内文化ホールの中で最も自主文化事業の開催数が多く、ホールの専門スタッフが市民の要望を取り入れ、市民参加型の企画運営を目指している。

狂言、演劇、音楽などのプロ公演を、ホールの専門スタッフが出演者の事務所と直接交渉し、市民の要望に即した事業内容として展開している。

また、地元出身の映画人の協力により、年間を通し定期的に世界の名画を見る会を開催するほか、地域の子どもたちを対象にして、キーボード、演劇、合唱の

指導を行い、発表する事業を展開している。

ホールを運営する財団は、地元企業の支援も受けて設立され、企業、市民の協力により運営している。

（２）入善町民会館（コスモホール）：昭和 61 年開館、北アルプス文化センター（上市町）：昭和 60 年開館

優れた音響効果を有する文化ホールとして、国内外の音楽家から注目されており、最新のデジタル録音の妨げとなる騒音がなく、集中できる環境からウラジーミル・アシュケナージも高く評価し、音楽業界で広く知られるところとなり、世界的な演奏家の公演やＣＤ録音の利用が増えている。

また、地方で本物の芸術を体験する機会を提供する公演や若手演奏家が滞在して公演する支援プログラムなど行っている。

（３）射水市小杉文化ホール（ラポール）：平成５年開館

優れた音楽ホールとして、オーケストラアンサンブル金沢等の公演や、館長の企画によりホールを練習、公演の場とする優れた吹奏楽団の設置、ホールのロビーを無料開放して行う小公演など、地域の優れた文化土壌に支えられた特色ある事業が展開されている。

（４）富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）：平成８年開館、富山市民芸術創造センター

富山市芸術文化ホールは、三面半舞台を備え、５階席までの、2,200 人を収容できる本格的なオペラ劇場ホールとして開場し、国民文化祭を皮切りに、大規模なイベント、コンサート会場として利用されている。

著名な興行劇場での経験豊富な舞台技術者を置き、当初は芸術監督、現在はプロデューサーを置いて、内外のプロのキャスト・スタッフによる芸術劇場、県内団体を中心とする市民ミュージカルなど、規模の大きな優れた舞台公演を創造している。

また、文化庁の「文化のまちづくり事業」や「芸術拠点形成事業」などに採択されているほか、新国立劇場とのネットワークや国内外の著名な音楽コンサート、舞台芸術公演を開催している。

同ホールでは、市民ミュージカルやオペラなど一部意欲的な創造事業も実施しているが、県外に発信するレベルでの創造事業の企画があまりなされないなど、

その先進的で大規模な舞台機構が十分活用されているとはいえない。

市内呉羽には、音楽専門学校の桐朋オーケストラ・アカデミーに隣接し、旧紡績工場を改装した音楽と舞台芸術の練習専用施設である富山市民芸術創造センターが開設されている。

舞台稽古場には、オーバード・ホールの舞台と、大きさ、照明、音響などの舞台機構を同じくする練習場を持ち、劇場公演の創造環境も整備されている。

また、音楽専用のリハーサル室、大中練習室、音楽専用の練習用の個室などを多く備え、市民に開放されているため、県内文化団体や個人が多数利用し、県民の文化活動の振興に大変貢献している。

（５）福野文化創造センター（ヘリオス）：平成３年開館

円形の床面のフラットな構造を活用して、住民の若手世代の活動を核に、ホール職員が協力して、海外のスチールドラムのバンドを毎年招へいして、地域の音楽イベント、地域のフェスティバルとして育てあげてきている。

その特色ある民族音楽、現代音楽の事業展開の実施の中で、地域住民による音楽演奏者グループが結成され、国際交流も行っている。また、文化ホールネットワーク事業を通じて、他ホールと連携した音楽事業の企画運営を行っている。

（６）クロスランドおやべ：平成６年開館

広告業務で活躍していた県外の専門家を館長に招き、ジャズ、ポピュラー音楽や人気芸能の演目などの事業を開催するほか、市民ロックバンドの練習、公演などの実施にも取り組むなど特色ある活動を行っている。

（７）射水市新湊中央文化会館：昭和 56 年開館

県内でも比較的早く開館した1,220席の客席を有する本格的文化ホールであり、市民合唱団による第九コンサート等の開催やミュージカル、歌舞伎の開催など活発な事業を展開し、市民も加わった会議により運営され、事業の総支出額に占める入場料収入額の割合は 57.2%（H15）と県立館なみの事業成績をあげている。

（８）氷見市民会館：昭和 38 年開館

事業数は少なく、施設も老朽化しているが、地域の氷見市芸術文化協会に自主文化事業の運営を委ね、事業の総支出額に占める入場料収入額の割合は 88.3%（H15）と県内で最も高い。

（ケ）高岡市民会館：昭和 41 年開館

高岡市民会館は、事業数が少ないものの、熱心な運営を行う文化ホールとして、館長の企画により、地元出身や県外の優れた芸術家との共同による作品創造で注目されている。

（９）砺波市文化会館：昭和 57 年開館

砺波市文化会館は、地域の音楽愛好団体や劇団などの協力を得て、地域や団体の交流による自主文化事業、音楽や演劇の指導事業など意欲的な自主文化事業を開催し、地域の文化ホールとして親しまれている。

（１０）その他の公立文化ホール

その他、高岡市ふくおか総合文化センター（U ホール）、婦中ふれあい館など熱心な職員と住民ボランティアの参画により、舞踊、音楽をはじめ、指導事業などの意欲的な企画で注目されるところもある。

（１１）公立文化施設以外のホール等

県公立文化施設協議会加盟館以外にも富山市内を中心にコンベンションや福祉等他の施策のためのホールや民間のホールが多数ある。

北日本新聞ホール（300 席）やタワー111 スカイホール（491 席）では、音楽、舞踊、講演会などの事業が行われ、その他、富山市内では、富山県民共生センター（350 席）、ボルファートとやま（500 席）、富山県総合福祉会館（サンシップとやま、300 席）、富山商工会議所（180 席）、安田生命ホールほか企業に付随するホールや公民館等がある。

それぞれ、大会の開催のほか、文化団体の発表会等にも利用されている。また、ホテルの宴会場を活用した発表、講演、コンサート等が開催されることもある。

3　県立美術館・博物館等

（1）近代美術館：昭和 56 年開館

・20 世紀以降の美術の流れを展望するコレクションをはじめ、現代美術を常設展示作品の中心に据えており、全国から高い評価を得ている。

県民に親しまれる美術館を目指し、魅力ある企画展や、工夫を凝らしたイベントの開催による施設利用者の促進を図る必要があり、広報、宣伝活動の拡充・強化が必要である。

・20 世紀美術の流れを確かめ、21 世紀美術の動向を展望するため、世界、日本、富山の視点から、代表的作家たちの作品を紹介する展覧会を企画開催するとともに、その作品の重点的、系統的収集に努めている。
特に、美術の流れを確かめ発展させるため、引き続き作家たちの業績の検証に努めるとともに、招来を担う若い作家たちの活動を支援していく必要がある。

・世界ポスタートリエンナーレトヤマは、世界各国からも 3000 点を超す応募があり、世界有数の国際公募ポスター展として高い評価を得ている。この展覧会に合わせ、平成 15 年度には、富山商工会議所と連携して「ポスターの街・とやま」を実施し、市街地でのポスター展示やワークショップを行うことにより、街に賑わいを創出し、街の活性化に大きく貢献している。

・児童・生徒の作品製作・展示やワークショップ、学校一日美術館など、学校教育と連携した教育普及活動を展開している。平成 14 年からは、独自に開発した教育用鑑賞教材を活用するキッズコーナーを開設した。県民が参加しやすい体験型事業の実施や児童・生徒向け教育プログラムの開発・展開など、教育普及活動を充実させる必要がある。

・昭和 56 年開館以来、わたしたちの壁画、トライアートなど、県内すべての小中学校を対象に教育普及活動を展開しているが、今後、児童・生徒の創造発信の場として様々な企画を検討する必要がある。

・他の美術館への作品の貸し出し、公共施設における展示、子ども向けの作品解説パンフレットの作成、ボランティアによる解説、美術館グッズの販売など、様々な活動を展開している。

・友の会組織の拡充と魅力ある活動の展開への支援を行うとともに、展示作品のガイドや美術講座等の運営補助を行うボランティアの養成、育成が期待される。

・市中心部から離れているが、市電、市内バスの公共交通機関に加え、17 年 3 月から、無料のミュージアムバスが運行されている。

（2）水墨美術館：平成 11 年開館

・水墨画を中心とする日本文化特有の美を紹介する特色ある美術館であり、県内外から高い評価を受け、報道機関との緊密な連携、協力による多彩な企画展の開催などにより、多くの入館者を集めている。

・子どもを対象に、水墨画家を講師とした水墨画ワークショップを開催し、その作品を展示するなど、教育普及活動を実施している。
・魅力ある企画展や、工夫を凝らしたイベントの開催による施設利用者の促進を図るとともに、一般向け水墨画ワークショップの開催や若手出品作家たちによる座談会など、教育普及活動を充実するとともに、広報、宣伝活動の拡充・強化が必要である。
・県内の水墨画、版画、書など日本美術の愛好者の人口は多く、これらの人たちが専門的な知識を身につけたり、創作活動が展開できるような事業を検討する必要がある。
・ボランティア、友の会による茶室、ミュージアムショップの運営などを行っており、県民サービスの向上を図るための施設として、駐車場の整備拡大が求められる。

（３）立山博物館：平成３年開館

・　日本三霊山のひとつである立山の雄大な自然及びそれに育まれた立山信仰の精神世界を紹介する特色ある博物館であり、身近に立山の自然、歴史、文化を学ぶことができる施設であるとともに、全国に立山の魅力を発信している。
・　「立山の自然と人間の関わり」をテーマに、立山信仰を展示内容とし、展示館、遙望館等で構成されており、講演会や映像事業等の普及活動を展開している。友の会の紙芝居による普及活動やボランティアによるまんだら遊苑の解説、旧宿坊の教算坊の運営補助を行うなど、県民とともに行う博物館事業を促進している。教算坊や善道坊、嶋家などの文化財の活用や維持管理を積極的に行い、県民へ公開している。
・　未解明の部分が多い立山信仰について、全国の研究者と連携を図りながら、継続的に調査研究を進めており、これにより立山信仰の檀那場と、そこでの信仰の状況が判明してきている。明治期以前には、日本三霊山として富士山や白山との間に少なからぬ関係があるなど、他の山岳修験や宗派との関係や影響を抜きにしては立山信仰を解明することができない部分も多くあり、今後、全国の大学や博物館等の研究者との連携がより重要になってくる。
・　パブリシティを利用した広報など集客に努めているが、カルデラ砂防博物館や観光機関等と一層の連携を図り、利用者の増加を図る必要がある。今後、布橋灌頂会などのイベントや、立山信仰をわかりやすく体験できる参加型事業の実施について検討する必要である。

・　県民を対象にした「出前講座」、「こころ講座」の開催や、友人、親子で立山の自然、歴史、文化を学習する「たてはく探検隊」の実施など、教育普及活動を展開している。
・　広範囲にわたる複合施設であり、利用者サービスの向上を図る観点から、休憩や飲食の提供などについて検討する必要がある。

（４）その他の県立施設

・立山カルデラの雄大な自然と立山砂防事業の意義を県内外の人々に普及・紹介している立山カルデラ砂防博物館及び立山センター立山自然保護センター、植物の観賞、育成、保存とともに、植物の調査・研究を行う中央植物園、埋蔵文化財の調査研究と保存活用を図る埋蔵文化財センター、日展、院展、などの展覧会に利用されている県民会館美術館、交通安全を紹介する交通公園交通安全博物館、教育博物館として資料収集、展示を行う教育記念館、健康づくりの大切さや健康的な生活習慣を身につけることの大切さを紹介するとやま健康パーク生命科学館、防災・災害に関する知識を学べる富山防災センターなどの自然、歴史、文化、生活、健康、防災等を紹介する特色ある県立の美術館・博物館がある。

４　その他の美術館・博物館等

地域に密着した自然、歴史、文化等を紹介する美術館、博物館が多数あり、広く県民から親しまれている。

（１）富山市郷土博物館（登録博物館）：昭和 29 年開館

・開館 50 年を迎え、平成 17 年にリニューアルオープン。築城から昭和の天守閣建設に至るまでの富山城の歴史を紹介する。富山藩と富山市の歴史・文化に関わる資料、郷土にゆかりの深い美術工芸品を収蔵。富山市のシンボルとして、市民に親しまれている。

（２）富山市民俗民芸村（登録博物館）：昭和 54 年開館

・民家を移築した施設において富山地域の歴史・民俗資料を中心に、売薬用具、埋蔵文化財、生活・生産用具等を収集・展示している。管理センターでは、各館で企画された講義、講座、陶芸などの実習活動を行っている。毎年、歴史民

族系、民芸系、美術系などの特別展を実施。また、富山市出身の水墨画家である篁牛人の画業を展示紹介するなど、学習と憩いの一体化を願った文化集落（複合施設）として親しまれている。

（３）高岡市美術館（登録博物館）：平成６年開館

・高岡市の伝統に基づき、金属工芸ならびに漆芸、絵画、彫刻などあらゆる美術・工芸分野から郷土にゆかりの深い作家やこれらに大きな影響を与えた作家の作品を系統的に収集・保存している。とりわけ金属工芸・金属造形については全国的・国際的な視野に立ち、幅広く収集し、特色ある常設展示を行っている。また、市民のためのギャラリーの設置、質の高い企画展示の実施、大学教授の指導のもと、子ども向けの企画展の開催など、工夫を凝らしている。

（４）高岡市万葉歴史館（登録博物館）：平成２年開館

・大伴家持ゆかりの地に所在し、万葉集とそれに関する資料の収集・整理・調査・研究を行うとともに、展示、出版、学習講座等の教育普及の場の提供の諸活動を行っている。古写本等の収集は全国屈指である。豊富な収蔵品を誇り、研究者、文学者の活動も活発である。

（５）砺波市美術館（登録博物館）：平成９年開館

・川辺外治、永原廣、清原啓一、下保昭など砺波にゆかりのある郷土作家作品、ロベール・ドアノー、ジャンルー・シーフ、井津建郎、高道宏、秋山庄太郎などの国際的に評価のある写真作品、北大路魯山人をはじめとする陶器漆芸などの日本の生活文化を表現する工芸作品を収集。年１０回の企画展を開催し、市民アトリエでは市内の幼児、小学生（１，２年）を対象にワークショップを行うなど、地域に根付いた活動を展開している。

（６）南砺市立福光美術館（登録博物館）：平成６年開館

・棟方志功、松村秀太郎の作品を中心に収蔵している。版画を企画展示の一基軸とし、地域の特色にあふれた展示を行っている。

（７）射水市新湊博物館（登録博物館）：平成 10 年開館

・新湊市久々湊出身の陶芸家で人間国宝第１号石黒宗麿の陶芸・書画作品、新湊とその周辺地域の歴史・民俗資料を展示する。特定のテーマによる年５～６回

の企画展を開催。また、江戸時代の和算家、測量家である石黒信由に関わる測量を体験学習でき、展示ごとの研究成果が蓄積されている。

（８）入善町下山芸術の森発電所美術館（登録博物館）：平成７年開館

・大正時代の風格を感じる赤煉瓦づくりの建物や、発電用タービン・導水管が残された展示スペースは、芸術的な想像力をかきたてる独特な雰囲気をただよわせている。地方文化の新たな創造のエネルギーを発電する芸術の発信基地をめざし、現代美術の立体造形を中心にした年 4 本程度の美術展を開催している。基本的に、流動的な現代美術の流れに対応するため収蔵品は持たず、作家の滞在による制作での展示を見せるユニークな企画を展開している。

（９）射水市大島絵本館：平成６年開館

・「感じる・つくる・伝える」を多面的に楽しめる絵本の複合施設であり、規模、内容ともに全国一を誇り、絵本が与える夢や感動を求め地元周辺や隣県はもとより、東京や大阪などからも多くの人が訪れる。１２回の開催を数える絵本コンクールは国内外より多くの出品がある。また土日にはワークショップを開催し、絵本に対する親しみを深める取り組みを行っている。月ごとにイベントを替え、情報発信を図っている。

（１０）セレネ美術館（博物館類似施設）：平成５年開館

・平山郁夫、塩出英雄、福井爽人、田淵俊夫、竹内浩一、手塚雄二、宮廻正明という日本を代表する作家に、黒部の自然を題材とする作品の制作を依頼し、完成した作品を常設展示してゆくとともに、今後の現代日本画の展開や動向を広く伝える質の高い美術館である。

（１１）西田美術館（博物館類似施設）：平成５年開館

・医薬品会社の工場敷地内に設置され、常設展、館蔵品展をベースに、年２回の企画展を実施している。また、町の小学生が町の様々な文化施設を訪ねたり、自然に触れたりするワークショップ「ふるさと学習」を行っている。

（１２）桂樹舎和紙文庫（博物館類似施設）：昭和 60 年開館

・旧学校校舎を活用した施設である。和紙への認識を深め、優秀な和紙作りの伝

統を次代へ継承せしめたく、その役割の一端を担うことを目的とし、常設展示、年 2 回程度の企画展示を行う。紙に関するものとしては、藤原期古経類、江戸時代古紙、芹沢銈介作品類、ビルマ・タイ経典類、エジプトパピルス、パーチメント、中国紙、タパ類その他 2,000 点を収蔵している。

〔富山県博物館協会加盟館園で県立以外の６４館の状況〕

新川地区

1	公立施設	朝日町宮崎自然博物館	国指定天然記念物鹿島樹叢を中心に地質関係８カ所、景勝地４カ所、縄文期・古墳記・中世以降の史跡など計８カ所、その他十数カ所にわたる学術研究対象場所を蔵す自然の環境をそのまま使用する博物館。宮崎城址、浜山玉つくり遺跡、笹川の渓谷等を広く紹介。
2		朝日町立ふるさと美術館	郷土ゆかりの芸術家（日本画の豊秋半二、谷口山郷、長崎莫人、洋画の安達博文、彫刻家の開発芳光、柚月芳、書道家の大平山濤、童画家の井口文秀など）の作品を中心とする資料を収集、保存、普及を行う。また地域文化の拠点となるべき幅広い活動を推進し、町民の供用文化に寄与することを目的としている。
3		入善町下山芸術の森発電所美術館	地方文化の新たな創造のエネルギーを発電する芸術の発信基地をめざし、現代美術の立体造形を中心にした年 4 本程度の美術展を開催していく。基本的に、流動的な現代美術の流れに対応するため収蔵品は持っていない。大正時代の風格を感じる赤煉瓦づくりの建物や、発電用タービン・導水管が残された展示スペースは、独特な雰囲気をただよわせている。
4		うなづき友学館(歴史民俗資料館)	宇奈月町の歴史・文学・芸能・民俗(生活民具等)・産業・自然科学・電源開発と温泉開発の資料を収集・パネル展示し、町民が生涯にわたり郷土研究や文化活動に親しみながら教養を高める施設。

5		黒部市吉田科学館	青少年に「楽しみながら自然と科学に対する関心と理解を深める場」、「自然の神秘に感動し創造の喜びを知る場」を提供する。プラネタリウム投影や公開ミニ科学実験、工作教室、パソコン教室、天文教室を開催。
6		黒部市美術館	郷土ゆかりの作家の作品を収集していくとともに、わが国における現代版画の流れをたどる作品の収蔵を行う。
7		魚津埋没林博物館	国指定特別天然記念物「魚津埋没林」を現地で保存展示している。蜃気楼のハイビジョン映像を上映。
8		魚津水族博物館	富山湾の生物を一堂に展示する当館は、海の自然科学博物館であり、生涯学習の場、学術研究の場として地域社会に寄与している。
9		魚津歴史民俗博物館	江戸時代から昭和前半までの農具・漁具、江戸時代魚津の代表的産業の漆器製作用具等を展示。また、縄文時代土器・石器、弥生時代土器・石器、立山曼荼羅、松倉城と松倉金山資料、江戸時代の加賀藩資料、米騒動等に関する資料を公開。
10	私立施設	百河豚美術館	朝日町出身の実業家・青柳政二が収集したコレクションを、地方の芸術・文化の向上を願い、故郷の地で公開。浮世絵、水墨画、大和絵、陶磁器、金工、漆工、木工、書、仏像など多岐にわたり、特に江戸初期の陶芸家、野々村仁清のコレクションはその質、量において他ではみることのできない貴重なものである。年３～４回企画展を開催。
11		黒部川電気記念館	世紀の大事業と言われた黒四建設工事をはじめ、厳しくも美しい黒部峡谷の自然を紹介。
12		セレネ美術館	平山郁夫、塩出英雄、福井爽人、田淵俊夫、竹内浩一、手塚雄二、宮廻正明という日本を代表する作家に、黒部の自然を題材とする作品の制作を依頼し、完成した作品を常設展示してゆくとともに、今後の現代日本画の展開や動向を広く伝える。

富山地区

13	公立施設	ほたるいかミュージアム	ほたるいかの生態的な情報を科学的に紹介する、世界でも例の無いユニークな施設。
14		滑川市立博物館	滑川市の歴史と民俗、自然環境について立体模型やグラフィックパネルを用いて展示している。特に、幕末から明治時代初期にかけての滑川の町並みをデフォルメして構築するなど、地域の歴史・民俗・自然科学諸資料の収集、保存、調査、研究、教育普及活動を行う。
15		立山町郷土資料館	雄山神社前立社壇の樹齢300余年のタテヤマスギの切り株などが目を引く。郷土の旧家や村文書、立山信仰、越中瀬戸焼、郷土にゆかりのある作家の作品等に主眼をおく。絵画、写 真、さつき等の展覧会が開かれることもあり、芸術愛好家達の作品発表の場である。
16		富山市大山歴史民俗資料館	成願寺川の治水、有峰、薬師岳関係の展示や恐竜の足跡化石のレプリカや産出化石を展示。
17		富山市郷土博物館・富山市佐藤記念美術館	開館50年を迎え、平成17年にリニューアルオープン。築城から昭和の天守閣建設に至るまでの富山城の歴史を紹介する。富山藩・富山市の歴史・文化に関わる歴史資料、郷土にゆかりの深い美術工芸品を収蔵。
18		富山市科学文化センター	郷土性豊かな科学博物館として市民に親しまれている。理工展示、自然史展示、季節展示、天文展示の４つの常設展示と、さまざまな視点で自然を紹介した写真展などの特別展示を展開。
19		富山市民俗民芸村	学習と憩いの一体化を願った文化集落（複合施設）として親しまれている。管理センターでは、各館で企画された講義、講座、陶芸などの実習活動を行っている。毎年、歴史民族系、民芸系、美術系などの特別展を実施。
20		富山市ファミリーパーク	ふるさと富山に生息する野生動物を中心とした日本産動物の飼育・生態展示及び研究、また、飼育動物や園内の豊富な自然を利用した教育啓発事業を実施。

21		自然博物園「ねいの里」	豊かな自然が残る県民公園内に設置。自然に親しみ、自然から学べる場として野生鳥獣や昆虫類の標本を展示。
22		八尾おわら資料館	おわらに関する資料の展示や映像技術を駆使した体験型施設。おわらの歌詞や踊り、地方といったおわらの重要な要素の資料を展示、解説。
23		八尾曳山展示館	県指定有形民俗文化財である曳山を常時展示しており、観光客の誘致とともに、伝統文化財である曳山の保存及び活用を図る拠点。
24		八尾美術保存展示館	歴史と文化の街である当地に伝わる様々な芸術作品を保存し展示。日本彫刻界の重鎮、横江嘉純の作品を展示。
25		八尾化石資料館「海韻館」	八尾町で採集された貝類化石を中心に、時代地層別に構成し、またそれにリンクした形で、子どもたちにも時代背景が理解できるように、イメージイラストも会わせて展示。地域の古生代以前から新生代に至るまでの各時代の地層や化石を見ることのできる。
26		猪谷関所館	関所に残された文書・武具・用具を展示、また廃村の神社にあった円空仏（神像３体、仏像２体）も一般公開。
27	私立施設	西田美術館	常設展、館蔵品展をベースに、年２回の企画展を実施。町の小学生が町の様々な文化施設を訪ねたり、自然に触れたりするワークショップ「ふるさと学習」を行っている。
28		北陸電力エネルギー科学館	６つのエネルギーの解説ボックス、省エネルギーコーナー、エジソンの発明品展示コーナー、エネルギーや科学関連の図書やビデオを公開。誰でも気軽に参加、体験できる「知的体験館」。
29		大谷和子こども美術館	児童画理解を普及させる社会教育機関として、13 カ国に及ぶ児童の国際交流団派遣をはじめ各種の活動を行い、また高齢者・障害者を対象とする芸術的生涯教育の場も提供。

30		桂樹舎和紙文庫	和紙への認識を深め、優秀な和紙作りの伝統を次代へ継承せしめたく、その役割の一端を担うことを目的とし、常設展示、年 2 回程度の企画展示を行う。紙に関するものとしては、藤原期古経類、江戸時代古紙、芹沢銈介作品類、ビルマ・タイ経典類、エジプトパピルス、パーチメント、中国紙、タパ類その他 2,000 点を収蔵。
31		坂のまち美術館	地域の伝統文化に密着した美術を愛する仲間たちによる手作りの美術館で、アート活動を通じて地域との交流を図る。現代洋画界を代表する大沢昌助の色と形の詩情漂う作品群、地元作家の林秋路が生涯をかけて描いた哀愁漂うおわら絵と版画を展示している。

高岡地区

32	公立施設	射水市新湊博物館	新湊市久々湊出身の陶芸家で人間国宝第 1 号石黒宗麿の陶芸・書画作品、新湊とその周辺地域の歴史・民俗資料を展示する。特定のテーマによる年５～６回の企画展を開催。
33		射水市大島絵本館	「感じる・つくる・伝える」を多面的に楽しめる絵本の複合施設であり、規模、内容ともに全国一を誇り、絵本が与える夢や感動を求め地元周辺や隣県はもとより、東京や大阪などからも多くの人が訪れる。１２回の開催を数える絵本コンクールは国内外より多くの出品がある。また土日にはワークショップを開催し、絵本に対する親しみを深める取り組みを行っている。月ごとにイベントを替え、情報発信を図っている。
34		射水市　陶房「匠の里」	県内郷土作家作品、匠の里陶友会員、作品展示及び販売。誰でもいつでも自分の発想を作品として具現化できるよう陶芸制作の基本技能をアドバイスして、陶芸制作ができように配慮・工夫している。

35		高岡市万葉歴史館	大伴家持ゆかりの地として、万葉集とそれに関する資料の収集・整理・調査・研究を行うとともに、展示、出版、学習講座等の教育普及の場の提供の諸活動を行っている。古写本等の収集は全国屈指である。
36		高岡市美術館	高岡市の伝統に基づき、金属工芸ならびに漆芸、絵画、彫刻などあらゆる美術・工芸分野から郷土にゆかりの深い作家やこれらに大きな影響を与えた作家の作品を系統的に収集・保存。とりわけ金属工芸・金属造形については全国的・国際的な視野に立ち、幅広く収集し、特色ある常設展を開催している。大学教授の指導のもと、子ども向けの企画展の開催するなど、工夫を凝らしている。
37		富山県立高岡工芸高等学校青井記念館美術館	県下中学校から公募する「青井中美展」、卒業生作品の優秀作品展や、同窓生の活躍を紹介する「同窓生ギャラリー」展を実施。
38		高岡市立博物館	地域の博物館として、今日まで郷土の歴史・民俗・産業部門に関する調査研究資料の収集、保存、展示、教育普及活動等を実施。「歴史」並びに「生産と生活」などの部門を中心に、テーマ別に企画展及び収蔵品展を開催。
39		高岡市福岡歴史民俗資料館	横穴古墳出土品、菅笠関係や福岡町の歴史と文化・民俗を紹介。平成 9 年に国指定文化財登録された。
40		ミュゼふくおかカメラ館	カメラやその仕組み・歴史を紹介するとともに、企画展として写真展を開催し、写真や撮影の魅力を伝えている。
41		氷見市立博物館	地域の博物館として、3 つのテーマに沿って、氷見の自然と歴史、漁業、大境洞窟や明治期の復元民家と民具、氷見全域の地形模型等を展示。春秋を中心に、「歴史・考古シリーズ展」や「氷見の民俗シリーズ展」のほか、「氷見にゆかりの人シリーズ」などの特別展を開催。

42		氷見市海浜植物園	海浜植物専門植物園として、マングローブ植物、熱帯・亜熱帯地方の海浜植物やつる性の植物、展示庭園、日本各地の海浜植物を集約展示。
43	私立施設	大楽寺	阿弥陀如来立像をはじめ、平安・鎌倉時代のもの 60 点余の彫刻、大楽寺御名号本尊をはじめ、室町・江戸時代のもの 10 点余の墨跡、法然上人御絵伝 12 幅をはじめ、50 点余の絵画等を展示。
44		二上山郷土資料館	二上山周辺の資料をもとに、祖先が遺した文化の偉業を讃え、永遠に後世に伝える。
45		宗教法人 高岡山瑞龍寺	三代藩主前田利常公によって建立された江戸初期を代表する禅宗建築である。七堂伽藍を備え、山門、仏殿、法堂は国宝、その他の建物が重要文化財として指定されている。

砺波地区

46	公立施設	小矢部ふるさと博物館	文化財保護・保存の観点から歴史・民俗・産業等に関する資料を展示公開し、市民の教育・学術及び文化の向上に寄与している。
47		砺波市立砺波郷土資料館	民具資料、出土品等の考古資料、古文書等を展示。砺波山居村地域研究所の活動に伴う諸資料の収集と紀要の刊行。
48		砺波市美術館	川辺外治、永原廣、清原啓一、下保昭など砺波にゆかりのある郷土作家作品、ロベール・ドアノー、ジャンルー・シーフ、井津建郎、高道宏、秋山庄太郎などの国際的に評価のある写真作品、北大路魯山人をはじめとする陶器漆芸などの日本の生活文化を表現する工芸作品を収集。年１０回の企画展を開催し、市民アトリエでは市内の幼児、小学生（１，２年）が来館して活動している。
49		松村外次郎記念庄川美術館	庄川町出身松村外次郎が寄贈した貴重な作品を常設展示。企画展示では、年間数回の企画展を開催し、地域美術文化の発展に寄与。

50		庄川水資料館	昔から庄川と深く関ってきた人々の知恵や生活文化を映像・音響・照明などを組み合わせ、迫力ある演出で紹介。
51		南砺市立福光美術館	ゆかりの芸術家である棟方志功、松村秀太郎の作品を中心に収蔵。
52		南砺市棟方志功記念館愛染苑	棟方志功が福光に疎開していたときの作品を中心に展示。岡本かの子の詩と絵が一体となった異色の作風で、”世界の棟方 ”への第一歩となった記念すべき作品の「女人観世音板画巻」や河童を題材にした「瞞着川版画巻」をはじめ、資料なども鑑賞できる。志功が住んでいた当時の様子をそのまま伝える貴重な住宅跡「鯉雨画斎」には板戸や厠に作品が残されており、棟方志功の自由奔放な創作姿勢が偲ばれる。
53		城端曳山会館･土蔵群｢蔵回廊｣	重要無形民俗文化財・城端曳山祭の曳山（３台）・庵屋台（３台）・傘鉾（４本）を常設展示している。曳山、庵屋台は３台ずつ毎年５月に入れ替え展示。
54		福野文化創造センター　ヘリオス	菅創吉作品 205 点、素画 46 点、長崎莫人作品 140 点、印牧邦一作品 26 点や県内出身作家 20 名の作品を展示。
55		南砺市立井波歴史民俗資料館	高瀬遺跡の出土品の収蔵と常設展示をし、併せて砺波地域の歴史資料や民俗資料の収集、保存。
56		利賀民俗館	利賀村内から収集した民具約 1,000 点を展示。
57		たいら郷土館	平村の歴史・民俗・考古資料や文化遺産を展示し、ビデオや映像にてわかりやすく紹介。
58		相倉民俗館	当地方の民俗資料を収集し、風土に培われた生活用具を展示公開する施設。生活用具等を展示。
59		五箇山民俗館･塩硝の館	世界遺産として登録された「菅沼合掌集落」の中にある。五箇山菅沼集落の景観と調和した歴史、民俗に関する資料を展示。
60	私立施	宗教法人　千光寺	聖観音像(白鳳期)、大威徳明王図、両界曼荼羅図(鎌倉期)、上杉謙信奉納刃(備前長船久光作)、禁制朱印状等を展示。

61	施設	井波彫刻総合会館	230 余年の伝統を誇る木彫刻から現代彫刻、工芸作品にいたるまで、技術の粋を集めた作品を展示。
62		井波美術館	全国的・国際的公募展に輝かしい受賞・入選した同人の代表作品を、広く人々に紹介。
63		民俗資料館　村上家	建物は、昭和 33 年、国指定重要文化財となった。建造物のほか煙硝製造用具、和紙製造用具、養蚕等の資料を展示。
64		宗教法人 行徳寺	蓮如上人の直弟子である郷土の光妙好人赤尾道宗の書き残した赤尾道宗心得二十一ケ条や蓮如御消息、板画家棟方志功、陶芸家河井寛次郎・濱田庄司等の作品を展示。